

教育用 LMS を用いた反転授業が論理的文章構成に及ぼす影響

○沖林洋平
(山口大学教育学部)

目的

近年、反転授業モデルが教育現場で広く導入されている。反転授業とは、「反転授業(Flipped Classroom)とは、授業と宿題、あるいは、教室での学習と家庭での学習を従来の関係から「反転(Flip)」させ、授業時間外にデジタル教材等により基本的事項の学習を行い、授業時間内ではその確認や応用に取り組む、という授業の形式のことを指す(沖林ら, 2019)。反転授業により事前学習の準備性が高まる一方で、学習期間が長期化するにつれて学習動機が低下する「動機づけの収束」が顕在化している。この現象は、文系科目のような、個人による解釈や価値判断が重要な学習領域において特に深刻な問題となりうる。

本研究では、文系科目を対象として、学習動機と論理的文章構成の関係を検討することとした。

方法

調査時期 本研究の調査は、2025年4月から9月にかけて実施された。

調査参加者 本研究の調査参加者は、教育学部の2年生41名であった。

調査項目 本研究では、以下の項目を用いた。1. 自主学習ノート作成後振り返り項目、2. 課題レポート提出後振り返り項目、3. 課題レポート。本論文では、そのうちの、課題レポート提出後振り返り項目の分析結果を示す。Table1に反転授業の構成を示した。

結果と考察

本研究で測定したすべての項目に対する回答結果を従属変数とするクラスタ分析を行った。デンドログラムの結果とそれにより得られた回答結果に基づいて、本研究では2クラスタの解釈が妥当であると判断した。クラスタごとの質問項目に対する平均値を確認した結果、学習活動に対して積極的であると推察できるクラスタと、あまり熱心ではないと推察できるクラスタという特徴がみられた。

表1 本研究の授業の進め方

時期	活動名	活動内容
授業前	自主学習ノートの作成	事前に通知されている当該授業のテーマやキーワードを各自が調べて自主学習ノートとして作成する。
授業中	発表担当学生のプレゼン	各自が異なるキーワードに関して調べ学習を行い、5分間でプレゼンする。プレゼンの際の意識としては、一方向的な説明にならずに、ほかの受講生に対する授業になるようにプレゼンをすることが求められる。
授業後	課題レポートの作成	発表内容や調べ学習の内容を踏まえて疑問点や質問を考える。ディスカッションの記録は Google スライドを使って全体に共有する。
授業後	課題レポートの作成	授業内容を踏まえたレポートを作成する。Google Classroom の Google フォームを用いる。

活動的クラスタでは、行動、実践、そして具体的な結果を重視する傾向がみられた。例えば、「自分でできる、生きる力を育てることに繋がるためである。」、「生徒一人ひとりの個性を尊重した、日常的な働きかけや、学級全体の雰囲気をよくする活動などを通して、問題が起こる前に予防する効果がある」といった児童生徒の主体性をはぐくむことや、自らできる具体的な行動について述べられていた。教師としての自分という自己イメージが発現し、将来教師として児童生徒にかかわっている自分のことを明確に想像できるようになりつつあることが読み取れる。